

平成27年度第5回中仙地域協議会会議録

平成28年 1月25日

中仙地域協議会

平成27年度第5回中仙地域協議会会議録目次

■開催日時	1
■開催場所	1
■出席委員	1
■欠席委員	1
■出席職員	1
■次第	1
■開会	2
■会長あいさつ	2
■支所長あいさつ	2
■会議録署名委員の指名	3
■協議	4
(1) 大仙市総合計画について	4
(2) 中仙地域活性化事業について	4
(3) 地域枠予算について	8
■その他	8
(1) 地域枠予算ガイドライン改正について	10
■閉会	13
■署名	13

■日 時：平成28年1月25日（月）午後2時

■会 場：中仙支所2階 第21会議室

■出席委員：14名

秋 山 康、遠 藤 ま き、金 子 美喜男、草 薙 幸 隆、
熊 谷 亮、児 玉 誠 良、佐々木 亨、柴 田 真希亜、
高 橋 泉、高 橋 成 悦、玉 井 勝 壽、傳 農 富士夫、
松 塚 勝 男、柳 田 ト シ

■欠席委員：4名

高 橋 一、佐々木 正 一、高 橋 久 逸、寺 田 文 男

■出席職員：7名

高橋 利省（中仙支所長）	伊藤 政子（市民サービス課長）
佐藤 吉一（農林建設課長）	草薙 栄良（中仙公民館長）
山信田 恭弘（地域活性化推進室副主幹）	進藤 哲規（地域活性化推進室主査）
鈴木 一徳（企画部総合政策課主任）	

■次 第：

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 支所長あいさつ
- 4 会議録署名委員の指名
- 5 協 議
 - (1) 大仙市総合計画について
 - (2) 中仙地域活性化事業について
 - (3) 地域枠予算について
- 6 その他
 - (1) 地域枠予算ガイドライン改正について（報告）
- 7 閉 会

(午後2時00分 開会)

○事務局(地域活性化推進室) 開会を宣言

○傳農中仙地域協議会会長(以下「会長」と表記)

遅ればせながら、新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。本日は、公私共にお忙しい中、会議に出席いただき厚く御礼申し上げます。今回は最近にないほど多くの出席をいただいているようで大変うれしく思っております。

ご案内のとおり、今年は年末年始にかけて雪の少ない状態が続いておりまして、今朝の新聞を見ますと角館で40センチ前後、去年の今頃は1メートルほどあったように記憶しております。しかしながら奄美大島のほうでは115年ぶりに雪が降ったということで、通常降らないところに降っているようです。いずれにせよ、ここは少ない状況が続いておりまして、除雪等、市の予算関係には非常にいいのではないかと思います。加えて新聞の状況を見ても原油価格の低下が進んでおりまして、灯油やガソリン価格の低下など、我々の生活にとってはよい影響があるのではないかと思います。

皆さんにご案内しておりますが、今日の会議は大仙市の総合計画、そしてまた中仙地域の活性化事業、地域枠予算についてであります。皆さんから忌憚のないご意見をいただきまして、有意義な会議となりますよう進めてまいります。会議への皆さんのご協力をお願いいたしまして、開会のあいさつといたします。

○高橋中仙支所長(以下「支所長」と表記)

私からもあらためまして、新年あけましておめでとうございます。本日はご多用のところお集まりいただきましてありがとうございます。

本日の案件につきましては、さきほど傳農会長よりご紹介がありましたが、審議に入ります前に中仙支所管内の状況等についてご報告させていただきたいと思っております。

初めにこれまでご承認いただいております地域枠予算の状況についてですが、継続中でありました10の事業のうち、8つの事業が完了しております。これでご承認いただいた全20事業のうち、18事業が完了しております。継続事業が2事業ありますがいずれも年度末までに完了する見込みとなっております。

続きまして、その他の事業についてご報告いたします。

初めに、昨年11月2日に自治会連合会との共催で開催いたしましたまちづくり研修会につきましては、雪対策推進室の田中さんを講師に迎えまして、雪対策総合計画についての研修と集落支援員とその活動を紹介させていただきました。中仙地域としては初めての単独での研修会でしたが57名の参加と協議会委員の皆様のご協力によりまして、市の新しい制度への理解を深めることができたのではないかと思います。引き続き行われました行政交流会にも31名のご参加をいただき、久米副市長、地元市議会議員を交えた有意義な情報交換の場になったと感じております。

次に11月4日ですが、除雪会議と除雪作業中の安全祈願が行われております。今日現在の積雪は40センチということで、これまでのところ雪対策総合計画の成果を発揮する

場面はありませんけれども、昨年は1月10日現在の積雪が1メートル2センチを記録しまして、市内では南外に続く2番目に多い積雪となっております。昨年の1月25日には69センチまで減ってございましたけれども、今年はそれよりもさらに約30センチ少ない量となっております。雪が少ない中でも、先週、長野地区の女性が除雪機の下敷きとなり骨折ということがありました。今後は、雪下ろしに関する事故が懸念されますが事故防止対策のヘルメットと命綱を1組ずつではありますが貸し出し用として各支所に備えております。市民の皆様には2月1日号の広報でお知らせする予定となっております。いずれにしましても、今後、豪雪ですとか雪に伴う災害がないことを祈っております。

次に昨日、1月24日ですが第27回中仙地域防火訓練が豊川の水神社で行われております。国の文化財防火デーとあわせ、県内唯一の国宝を地域で守るという意識を高めようと、地域住民、自治会の皆さんを中心に大仙市消防団、広域消防中仙分署、警察駐在所、市などで毎年実施しております。当日は天気も晴れまして、気温は低めでしたけれども、絶好の訓練日和の中で実施されております。また前後しますけれども、1月2日には満100歳を迎える方への長寿祝い金の贈呈がありました。これで中仙地域の100歳以上の方は3名になりましたけれども、これに続く満99歳の方も昨年の敬老会の時点で5名おります。確実に高齢化が進んでいるわけですが、元気に活躍している高齢者も多いわけですので、地域づくりや地域活性化のうえでも重要な点になるのではないかと思います。

また、物産中仙につきまして広報等でお知らせしておりましたとおり、昨年11月いっぱいでおかきの製造を終了しております。道の駅に工場が完成した平成8年から約20年間操業してまいりましたけれども、設備の老朽化などにより残念ながら工場の閉鎖となったものでございます。物産中仙そのものは引き続き杜仲関係の商品、きりたんぼ、漬物などをこれまでどおり取り扱ってまいりますのでよろしくお願いたします。なお、工場跡につきましては今後皆様のご意見をいただきながら有効活用を図りたいと考えておりますのでよろしくお願いたします。

以上、説明させていただきましても、委員の皆様には今後とも様々なご助言やご指導を賜りたいと存じますのでどうかよろしくお願いたします。

○事務局（地域活性化推進室）

それでは本日の協議に入りたいと思います。

本日の協議会は委員の2分の1以上の出席をいただいておりますので、本協議会は成立しますことをご報告いたします。

それでは、会議の進行につきましては条例の規定により傳農会長にお願いいたします。

○会長

それでは次第4の「会議録署名委員の指名」ですが、今回は佐々木亨委員と高橋泉委員にお願いいたします。

それでは次第5の「協議」に入ります。

はじめに（1）の「大仙市総合計画について」を議題といたします。本日は説明のため

市企画部総合政策課から職員が出席しております。総合政策課のほうから説明をお願いします。

○市企画部総合政策課 鈴木主任（以下「総合政策課主任」と表記）
資料に基づき説明。

○会長

皆さんには事前に資料を配布しておりました。ただいま総合政策課より説明がございましたが、皆様よりご意見・ご質問を受けたいと思います。

（なし）

次に協議（２）の「中仙地域活性化事業について」を議題とします。事務局から説明をお願いします。

○事務局（地域活性化推進室）

資料に基づき説明。

- ・『ドンパンの里なかせん』活性化プロジェクト
- ・道の駅の活性化と地域のにぎわいの創出
- ・地域にぎわいサポーター事業

○会長

ただいま事務局から説明がありました。皆さんからご意見、ご質問をいただきたいとおもいます。

○草薙幸隆委員

中仙地域の活性化事業について説明いただきましたが、どの事業も最終的には地域枠予算を財源としているようです。そうすると、これまで実施してきた他の地域枠予算事業が縮小されるというようなことになるのでしょうか。

○事務局（地域活性化推進室）

今回説明させていただいた３つの事業はいずれも平成２８年度当初予算に予算要求しております。地域枠予算との関連については、この活性化事業ははじめて行う事業ですので今年度中の実施準備に係る経費をお願いしたいということです。

また、これまで地域枠予算に申請していただいていた活動団体の事業ができなくなるのではないかとのご指摘をいただきましたが、これに関しては継続して実施していきたいと考えております。Ⅰ型の事業で一般予算化すべきものについて、市当局と協議し一般予算化することで予算を確保できればと考えております。

市の財政状況として新しい事業に予算をつけることが難しくなっている状況もあります。

もちろん今後事業の制度設計の中でのなるべく費用がかからないようにいたしますが、中仙地域独自の事業ですので28年度以降、事業費の一部に地域枠予算を活用させていただきたいと思っております。

○草薙幸隆委員

今後、皆さんで検討していく中で方向性が見えてくるとと思いますが、資料には「イベントから文化への昇華」を位置づけております。どうしても文化活動という捉え方をしてしまうと、事業そのものから収益が考えられなくなってしまいます。この活性化事業をそこだけにあてはめてしまうと参加する人にとってもメリットや面白味が不足してしまいます。むしろ、文化にこだわらなくてもある程度商業的な部分もはいついていいのではないかと思います。

熊本の「くまもん」は1つのシンボルとしてのキャラクターですが、キャラクターの使用料を無料にして、その代わり皆さんで盛り上げていきましょう。主催者側としてはその分出費が減りますし、参加者にはリスクはありますけれども直接収益が上がるためがんばります。このようなやり方も考えてもいいのではないかと思います。

○会長

ほかにございませんか。

○秋山康委員

説明を一通り聞かせていただきましたが、事業のピントがずれているような気がします。ドンパン節に関しては、「ドンパン」そのものを広告の材料として中仙のイメージ・価値を高めようというのがこの事業の狙いではないかと思います。この狙いは良いと思いますが、方法について少しずれているような気がします。そもそもドンパン節は民謡の中でもポップなものだと思います。それをわざわざ系統立てる必要があるでしょうか。確かに保存のためには必要なのですが、型にはめたものにしなくても、もっとくだけた、自由なイメージで展開したほうがいいのではないかと思います。加えて、ドンパン娘に関しては難しい問題でして、現実として自発的にドンパン娘になろうとする人はいないのではないかと思います。ですので地域の若い人を前面に出してという方法は少し無理があるのではないかと思います。HP作成の計画もあるようなのでむしろ県外から募集してみてもどうでしょうか。そしてドンパンを使ってアイドル的なものを作り上げるという方法もあるのではないかと思います。もっと、堅苦しくなくおもしろおかしくやっていったほうが、むしろ中仙のイメージアップになるのではないかと思います。

また、道の駅ついてですが、これで道の駅が活性化されるとは思わないのですが、ただ、共感するところもありまして、道の駅なかせんについては様々な事がいわれていますが、一つ他の道の駅にないところがありまして、それは川、斉内川があるということです。私は常々、道の駅ではなく川の駅にしたらどうかと思っているくらいです。ですので、もっと特徴である川を、この計画以上に利用してはどうでしょうか。また、計画では子どもを

主たるターゲットにしているようですが、大人をターゲットにしないと活性化しないと思います。子どもはお金を落とさないのです。子どもをターゲットにするのであれば大人もついてくる形にしないと活性化になりませんので、その部分をもう一ひねりしていただければと思います。あと、あの河川敷については私も焼肉などで利用していますが、焼肉・バーベキューに関しては有料にしてもいいのではないのでしょうか。道の駅で道具や材料を売るといった形も良いのではないかと思います。また、川自体を子どもも大人も遊べる場所にするためには川を安全にしなければいけません。今のままでは自己責任になってしまいます。例えば、魚を手づかみできるよというものと作るとすれば、当然河川をきれいに安全にしないといけないし、魚も今いるだけでは足りないので放流するといった形になると思います。これだとお金がかかることですので、一匹いくらという形になるのかなと思います。また、釣堀という形もあるかもしれないですし、カヌーがもし可能ならばカヌー体験でも。このように川を使って楽しめる場所にさせていただければと思います。

コミュニティポイント制度については良くできているなと思います。

○事務局（地域活性化推進室）

大変参考になる意見ありがとうございます。

○会長

さきほど草薙委員からも本来は地域枠ではなく一般予算化すべきではないかとのことでしたが、先日、副会長と数回、地域協議会の連絡会議に参加しました。地域枠予算にはⅠ型Ⅱ型Ⅲ型がありますが、それぞれの使い方が少しずつれているのではないかという意見がでております。今後は地域枠予算でやるべきものと市でやるべきものを皆さんの意見を参考に決めていきたいと思います。

ほかにございませんか。

○会長

ドンパンのかすりの着物については、個人所有なのか市で所有しているのか、あるいは一般にも助成して増やしていくというような計画はあるのでしょうか。

○事務局（地域活性化推進室）

市といえますか、実行委員会で所有しているものが3着ほどあります。不足する分については商工会より借りてきているという状況です。

○柴田真希亜委員

市の観光物産協会でも首都圏イベントなどに行く際に東京のモデルクラブに依頼し、ドンパン娘の衣装でPRしてもらいます。やはりかすりを着ていると周囲の目を引きますのですごく効果的です。

今回そのために協会としても3セット購入しましたので活用いただければと思います。

また、ドンパン娘をメディアに出してPRしたいということでしたが、そのこと自体は良い計画だと思いますが、イベント毎に来てくれる若い女性の確保がやはり難しいのではないかと思います。ただ、かすりの衣装はやはり目を引きましますし、PRになると思います。

○草薙幸隆委員

かすりの衣装は1セットどのくらいするものですか。

○柴田真希亜委員

7万から8万円程度です。上から下まで全てそろえたとすればこれくらいはします。あと、羽後町の盆踊りのように踊りでPRするというのは大仙市近辺では中仙のドンパンレディースだけだと思います。あれだけ大人数で踊ってPRするというのはどこの地域にもないので貴重なものだと思います。ですので、ドンパン娘ももちろんですが、ドンパン踊りのお母さん達ももっと取り上げてPR隊として活用してみてもどうかと思います。

○会長

ほかにございませんか。

さきほど道の駅の話がでましたが、おかきをやめたということでしょうか。工場そのものをやめたということでしょうか。

○支所長

おかきをやめましたし、工場も動いておりません。

○高橋泉委員

その件ですが、新聞で報道されて以降、道の駅自体をやめたと誤解している方がかなりいます。ですので、道の駅が営業しているよということをPRしてはどうかと思います。この件があってからお客さんも減っているような気がします。

○熊谷亮委員

例年11月12月はお客さんが減る時期ではあります。ただ、昨年と比べるとむしろ増えていますので、あまり影響は無いのかなと思います。

○支所長

誤解が生じているとの話がでましたが、おかき工場を辞める際も誤解されないようにと十分気をつけて市からも物産中仙のほうからも広報したつもりですけれども、今後、道の駅はちゃんとやっていて、物産中仙では杜仲やきりたんぼをやっていますよということをお知らせしていきたいと思います。また、先ほど説明しました活性化事業だけではなく、様々な形で道の駅に喜んで来ていただけるような取り組みをしたいと思いますので、皆さんにはご遠慮なくご意見をいただきたいと思います。

○会長

ほかにございませつか。

(なし)

次に協議(3)地域枠予算事業についてを議題とします。事務局から説明をお願いします。

○事務局(地域活性化推進室)

資料に基づき説明

【地域枠予算事業】

・実施類型I型

1. 中仙地域活性化事業準備経費

担当課 地域活性化推進室

事業目的 平成28年度から始まる10年間の基本方針を盛り込んだ地域振興計画に基づき、中仙地域の特色や実情を踏まえた新たなまちづくりの推進に向けた事業を展開する。4月1日からの事業実施をスムーズに行うため、一部の事業に係る準備を開始するもの。

事業概要 地域にぎわいサポーター事業「コミュニティスタンプラリー制度」

- ・地域住民に対する制度周知やPR経費
- ・開催イベント用スタンプ作成
- ・スタンプカード作成(ポイント台紙)
- ・会議資料作成(道の駅、自治会連合会等)

事業費 909,000円

- ・印刷製本費 414,000円(制度周知チラシ、コミュニティブック)
- ・消耗品費 495,000円(スタンプ特典、スタンプ、のぼり旗、会議費)

2. 中仙地域振興計画(概要版)作成事業費

担当課 地域活性化推進室

事業目的 平成27年度第2回地域協議会において承認された、市運営の基本方針を示す新たな総合計画地域編「中仙地域振興計画」について、地域の特性を活かしたまちづくりを推進するため、地域住民への周知を図り「明るく豊かな住みよい文化のまちづくり(計画の将来像)」を目指す。

事業概要 中仙地域振興計画(概要版)を作成し全戸配布する。

- ・作成部数 3,500部

事業費 151,200円

- ・印刷製本費 3,500部×40円×1.08=151,200円

3. ジャンボうさぎ着ぐるみ更新事業

担当課 農林建設課

事業目的 中仙地域で10月開催の「全国ジャンボうさぎフェスティバル」が今年度で第28回を数え地域の秋の行事として定着している。うさぎ品評会とイベントが同時進行され、イベントのマスコットキャラクターとして「デカラビくん」と「デカラビコちゃん」はフェスティバルを盛り上げ、子供達からも大変人気があり一緒に餅つきをしたり、風船をプレゼントしたりとイベントで活躍している。

平成5年に作成され22年が経過した着ぐるみということもあり、頭部内の破損やクリーニングできない部分もあることから汚れが目立つようになっている。特に破損が酷い「デカラビコちゃん」の更新をし、フェスティバルに訪れる皆さんを出迎えたい。

事業概要 「全国ジャンボうさぎフェスティバル」のマスコットキャラクター「デカラビコちゃん」の着ぐるみの更新をする。

事業費 810,000円

・委託料 750,000円×1.08=810,000円

○会長

それでは皆さんからご意見をうかがいます。

実施類型Ⅰの中仙地域活性化事業準備経費、909,000円の申請です。いかがでしょうか。

○金子美喜男委員

この事業費の中で会議費とありますが、どのような内容のものでしょうか。

○事務局（地域活性化推進室）

この制度をはじめめる上での道の駅や各種活動団体、自治会連合会などと協議にかかる費用で、用紙代として5,600円程度を見込んでいます。

○会長

他にございませんか。

(なし)

それでは申請どおり承認することといたします。

次に2の中仙地域振興計画（概要版）作成事業費になります。事業費は151,200円です。ご意見ございませんか。

(なし)

それでは申請どおり承認することといたします。

次に3のジャンボうさぎ着ぐるみ更新事業、事業費は810,000円です。ご意見ございませんか。

○会長

今回は1体のみの更新ですね。

○事務局（地域活性化推進室）

着ぐるみが高価ですので、予算的なことから今回は1体のみの更新となります。

○草薙幸隆委員

事務局より著作権の関係を説明いただけないでしょうか。着ぐるみで8.1万円というのは相場の倍程度になると思います。なぜこうなるのかというとデカラビくんの著作権が製作会社の所有となっているために、いい値で契約しなければいけないというのが現状ではないかと思います。

○佐藤吉一農林建設課長（以下「農林建設課長」と表記）

事業費には著作権代も含んでいますが、着ぐるみ自体も高いと聞いています。

○草薙幸隆委員

着ぐるみといたしますと40万円から60万円が相場です。それから考えるとちょっと高いのではないかと。

○農林建設課長

確認いたします。

○会長

他にございませんか。

（なし）

それでは申請どおり承認することといたします。

それでは地域枠予算事業についての審議を終わります。

次に次第の6「その他」に移ります。地域枠予算の運用に係るガイドラインの改正についての報告になります。昨年、市の地域協議会の連絡会議の中で地域枠予算の見直しについて協議してきましたが、その内容を盛り込んだ見直し案について報告させていただきます。

（資料に基づき説明）

委員の皆さんからご意見ございませんか。

○秋山康委員

すみません。議題の(1)の大仙市総合計画について質問させてください。1つ目は、この計画における最終年の大仙市の予算規模をどの程度と捉えているのでしょうか。なぜかという、高齢化に従って人口が減ります。人口が減るということは税収が減ります。また、ふるさと納税という制度がありますが、大仙市では500万円程度外からもらっているというのはでていましたが、実際は外に出ていっている金額のほうが多いのではないのでしょうか。さらに、今後企業もふるさと納税ができるようになるのではないかと今計画中のようです。今現在は寄付、節税としてのメリットしかありませんが、今後、個人のふるさと納税のようになんらかのメリットが発生した場合、企業もどんどんふるさと納税していくと思います。それを踏まえて、大仙市ではこの計画においてどのくらいの予算をみているのでしょうか。

2つ目は、計画全体について、高齢者福祉に重点を置くのか、今現在生産年齢の世代に重きを置くのか、または将来を担う子どもにお金を使うのか、大仙市自体そんなにお金のあるとは思えないのでどこかに重点をおかなければいけないと思います。この計画では満遍なく全てにという作りになっていますが、実際はどこかに偏るのではないのでしょうか。

○総合政策課主任

1つ目の予算に関してですが、来月、2月8日に平成28年度予算の内示がでます。それを受けまして、市の今後10年の予算を概算で算出します。それを計画の中に掲載する予定です。次に予算の配分、どこに重点を置いていくのかということですが、本来であればすべての世代に満遍なく取り組みができればいいのだと思いますが、先ほどグラフで簡単に説明させていただきましたが、少子高齢化、特に0歳から14歳の子ども、いわゆる年少人口の減少が激しいと。その一因には20代30代に結婚しない人が多いということがあります。また、今回の資料には掲載していませんが平成22年の大仙市の未婚率の推移というデータがあります。25～29歳の未婚率が男性だと69%、女性54.6%。30～34歳についても男性は46.6%、女性29.7%となっています。やはり20代30代の方が結婚しないとなると出生率にもかなり影響があります。このようなデータもありますので、今のところ20代30代に少し力点をおいた取り組みをしていきたいと考えています。

○秋山康委員

なるほど、というようなデータでありましたが、子どもができない、増えないのは結婚しないのもありますが、結婚している人たちも作らないからということもあります。ですので、出会いも必要ですが、子育てにお金がかかる、結婚しても経済的に自立できないということもあると思います。ということは産業に力を入れなければならないということだと思いますので、その点も考慮に入れていただきたいと思います。

○会長

他にございませんか。

(なし)

それでは事務局のほうから皆さんにご連絡があるようですのでお願いします。

○事務局（地域活性化推進室）

(東部地区地域協議会委員研修会について説明)

○会長

ぜひ皆さんからの出席をお願いいたします。

その他全体をとおして皆さんからなにかありませんでしょうか。

○高橋泉委員

一つ質問ですが、昨年の夏過ぎだと思いますが、市でコンサルタントを使って道の駅のアンケート調査を行っていたと思いますが、その結果はいつ頃でののでしょうか。

○熊谷亮委員

先日結果がきまして、現在まとめている段階です。後日お知らせいたします。

○高橋泉委員

お願いします。あと、今日の会議でずっとテーマになっていたのが「人が生き人が集う夢のある田園都市」ですが、それを目指すために、先ほど秋山委員もおっしゃったようにお年寄り若い人も元気を出してもらいたいですけれども、中間の私達の層が元気でないとまくいかなと思います。例えば、中仙地域として食と健康をテーマにするのはどうかと思います。今、おかき工場が撤退したということで、あの広い跡地をどのように活用していくのかというのが今日の資料にもありましたが、例えばあそこには米粉を製粉する機械が導入されていまして、現在でも他町村からも発注があります。米粉もですが、道の駅はもともと「こめこめプラザ」という名前ですし、米にこだわった健康志向的な料理講習のようなものや、地元の野菜を使って運動と関連させて展開していったらどうかと思います。

○農林建設課長

米菓工場の今後についてですが、補助事業で建設している関係もありまして、機械を整理するのも色々制約があります。現在その点について県と協議しており、跡地を有効に活用できるようにしたいと考えています。

○会長

ほかにございませんか。

(なし)

本日は長時間にわたり有意義なご意見をいただきありがとうございました。今後も、皆さんの活発なご意見をいただけることを期待しています。本日はありがとうございました。

(午後 4 時 11 分 閉会)

中仙地域協議会運営規程第 7 条第 2 項の規定によりここに署名する。

会議録署名委員
